

関西イノベーション国際戦略総合特区国際競争力強化方針

〔平成23年12月22日〕
〔内閣総理大臣決定〕

1. 産業の国際競争力の強化に関する目標及びその達成のために取り組むべき政策課題

(1) 総合特区により実現を図る目標

医薬品、医療機器、先端医療技術（再生医療等）、先制医療、バッテリー及びスマートコミュニティを当面のターゲットに、今後、我が国だけでなく、アジア等で大きな課題になる高齢化やエネルギー問題に対応できる、課題解決型ビジネスの提供、市場展開を後押しする仕組みの構築を目指す。

これにより、スピード感をもって、我が国経済の再生と震災からの復興に貢献するとともに、我が国やアジア等の医療問題や環境問題を克服し、持続的な発展に寄与する国際競争拠点を形成していくことを目標とする。

(2) 国と地方で共有する包括的・戦略的な政策課題

＜実用化・市場づくりをめざしたイノベーションを次々に創出する仕組みの整備＞
アジア等における新興市場が拡大する中で、以下の要因のために我が国産業は競争力を低下させ危機的な状況にある。

- ① スピード感をもった開発・市場展開に欠ける。
- ② 高い性能、品質を生かせず、コスト競争で負けてしまう。
- ③ 多様で複雑化する社会課題に対応できる課題解決型ビジネスを開拓できていない。

これら要因を克服することが課題であり、多くのシーズ、知的財産を保有する我が国の産学の強みを実用化、事業化につなげるため、個々の企業や地域単独での取組だけでは困難なイノベーションを創出するための環境を整備する必要がある。

2. 目標を達成するために指定地方公共団体が実施し又はその実施を促進しようとする事業に関する基本的事項

(1) 解決策

先端的なシーズや研究成果をいち早く実用化し、市場化に結びつけるイノベーション

を次々に生み出す世界レベルの仕組み「イノベーションプラットフォーム[※]」を構築する。

※ 企業や地域単独では解決できない政策課題について、府県域を越えて資源を集中化して取り組むことで、次々にイノベーションを創出することにより実用化・市場化を図っていく仕組み。

① 研究、開発から実用化へのさらなるスピードアップと、性能評価等による国際競争力の強化

i) シーズから事業化までのスピードアップ促進

ビジネスサイクルの遅れや高コスト構造の改善の遅れは、現在の円高問題のように国外への技術や企業の流出圧力が強まれば、一気に産業の空洞化を招く恐れが大きいため、国内で「ビジネスのスピードを飛躍的にアップ」できるような仕組みづくりやビジネスコストの低減に向けた取り組みの集中的な実施を図る。

ii) 高い性能を差別化に結び付けるための評価基準の確立と規格化、標準化の促進

我が国技術の強みを競争力の向上に結び付けるため、「有効性・安全性評価」など「性能評価等による製品の差別化」により、新市場を創出する機能の一体的な整備を図る。

② 多様な産業・製品技術の最適な組み合わせによる国際競争力の強化

i) 先端技術分野における産学官連携の取組み

京阪神の大学や研究機関が有する先端技術分野のシーズを生かすため、産学官連携の仕組みを強化することでより早期の実用化を図る。

ii) ソリューション型ビジネスの促進とマーケットニーズに応じた戦略的な海外展開

アジア等における新興市場が今後大きく成長する中、我が国がイニシアチブをとるために、優れた技術や製品を最大限生かすような最適な組み合わせを図る「パッケージ化を進めていく戦略」が重要であり、産学官の連携により、そのための促進機能（オープンイノベーションの仕組み）の整備を図る。

また、「課題解決型のソリューション力」を武器に、官民あげて集中的なプロモーションやマッチングを促進するための機能提供を図る。

③ イノベーションを下支えする基盤の強化

i) イノベーションを担う人材の育成・創出等

産業の知識集約型化が進む中で、人材育成や世界からの人材誘致をいかに進めていくかが産業の競争力強化のために重要であることから、関西が産学官の連携によ

り、このための人材育成、人材誘致に係るプラットフォームの提供を図る。

多様なプレイヤー、人材がイノベーションに向けた事業展開を図り、新たな市場に参入していけるようものづくり中小企業の参入促進、ベンチャーの新たな取組を支援する基盤の強化を図る。

ii) 産業・物流インフラの充実強化によるイノベーション促進

海外とのネットワーク性が重視され、海外展開を支える産業基盤としてますます役割が大きくなっている関西国際空港や阪神港などの物流機能を、アジア等における新興市場とのネットワークを太くし、イノベーションの創出効果をさらに高めるために貢献する基盤として強化を図る。

産業活動と物流ネットワークの関係性を踏まえ、関西国際空港においては、スピードと品質、ネットワークの多様性に係る「世界最高水準のクールチェーン」を構築するとともに、阪神港においては国内コンテナ貨物の集荷機能の強化、港湾コストの低減等を図ることで、日本・関西産業のグローバル展開を加速、産業イノベーションを下支えする。

(2) その他

上記に係る事業のうち、新たな規制の特例措置等に係るものについては、申請者からの提案をもとに国と地方の協議の場における協議の議題とし、関係府省は、その協議の結果を踏まえ、関係機関と調整を図りながら、必要な措置を講ずるものとする。

3. その他必要な事項

特になし